

教育目標：○思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○力を合わせる子 ○元気な子
 目指す学校像：○確かに学ぶ学校 ○安全・安心な学校 ○未来を創る学校 ○ともにある学校
 目指す児童・生徒像：○主体的に学び、自らの力を高め伸す子 ○自他を大切に、心豊かに他者と協働する子 ○心身ともに健康に生活する子
 目指す教師像：○学校の役割を十分に理解し、家庭・地域と連携して教育活動に貢献する教職員 ○心身ともに健康な教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 主体的・対話的に深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。 カリキュラム・マネジメントを推進するとともに、多様な人々と協働しながら課題解決を図る学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 ◎育に合った指導、互いに学び合い、高め合う指導、タブレット型PCの活用を推進・充実させる。 ◎体系的・協働的な学習、探究的な学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的に深い学び」、「分かりやすい授業」を推進し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 「習得・探究・活用」「問題解決」の学習過程を取り入れた授業、生活科や総合的な学習の時間を中心とした人的・物的資源を生かした協働学習を行う。国分寺学の推進を図る。 	4		4		<ul style="list-style-type: none"> 保護者の96%、児童が97%が肯定的評価であった。 ◎低学年では、学習に取り組む基本姿勢を重点的に指導し、成果が出ている。 ◎全学年で、基本的な学習内容(漢字の読み書き、計算)の復習を家庭学習で継続的に取り組むことにより、理解が確実なものになった。 ◎指導方法を工夫し、楽しみながら学習を進められるようにしたが、知識・技能の習得に課題のある児童もあり、今後も工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自ら学ぶ喜び」を実感するために、児童が自主的に取り組む学習活動や家庭学習の工夫をする。 ◎お互いに授業観察を行い助言し合ったり、他校での授業実践に参加し指導法を学んだりするなど、教員が自らの指導力を伸ばす機会を増やしていく。 ◎児童のノートや作品、活動の様子を授業の評価として捉え、それを生かして授業改善を行う。 ◎サポート教室の活用だけでなく、個別指導を行える体制(時間や人員の確保)を整える。
安全・安心な生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の醸成と他者を大切にすることを言葉や態度(挨拶・礼儀)で表すことができるようにする。 いじめや差別、体罰を絶対に許さないなど、全教育活動を通じて人権を尊重した教育活動を推進する。 ◎安全教育の推進に取り組む。 ◎教材・教具、校内環境の美化・整備を適切に行い、教育環境を安全に整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基本的な生活習慣や集団生活をすすめるためのルールを徹底を図る。 ◎自他の心身を大切にするための判断力・行動力を身に付けさせる。 ◎いじめ防止・不登校対策の充実を徹底を図る。 ◎保護者や地域、関係機関と連携した安全教育の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「10のきまり」「10の約束」の指導の徹底を家庭と連携して行う。 ・挨拶や相手を大切にすることで、暴力や暴言を許さない。体罰防止に努める。 ・組織的にいじめ防止に取り組む。毎月、笑顔チェックカードにより児童の様子を把握し、SOSを見逃さないよう細心の注意を払う。 	3		4		<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者の96%が肯定的意見だった。同じく児童も96%だった。 ◎挨拶などはよくできているという意見が多い。全校朝会の呼びかけや、生活指導の情報の共有などで、職員が共通の意識で指導したことが有効だったと言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校で学ぶことのできる「集団生活において必要となる学び」として、挨拶、礼儀、協調性、個性の認め合いなどについては、児童が本来もっている思いや力を引き出す指導を行う。 ◎ルールやきまりを守らせることだけの指導にならないよう、他人や集団の中の自分を意識することで自然と守ることができるよう全教職員で声掛けをしていく。 ◎教職員間の「報告・連絡・相談・協働」を徹底し、保護者と同じ思いをもって指導することで、児童が困り感や不安を感じないよう努める。
豊かな心・たくましい体	<ul style="list-style-type: none"> 困難なことにも立ち向かい、様々な人と協働し、課題を解決していくことができるたくましい心と体を育成する。 ◎自分のよさや可能性を伸ばし、生き方について考えを深めたり、自分の夢や希望を大切にしたりすることができるようキャリア教育を推進する。 ◎家庭との連携を図り、生涯にわたって運動に親しみ、健康な体を維持していこうとする態度を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎特別支援教育や多様な人権教育の学習を充実させる。 ◎キャリア教育の推進し、自分のよさ・生き方について考える機会を設けたり、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせる。 ◎音楽・造形活動を通し、豊かな情操を養う。 ◎「体力の向上」「食」の大切さを理解し、健康な生活を送ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや特別支援教室の巡回指導教員等と連携し、発達障害や多様な人権への理解を深めたり、道徳教育・人権教育の指導を充実させる。 ・ゲストティーチャーによる授業や自分のよさや協働するよさを感じる授業を充実させ、キャリア教育・アントレプレナーシップ教育を推進する。 ・音楽や発表など表現する機会を積極的に設けるとともに、学級活動、委員会活動を充実させ、児童の自主的な活動を推進する。 ・児童による委員会活動や休み時間の有効活用により、「楽しみながら運動に親しみ機会」の日常化に取り組む。 ・元気チェックカードの活用や栄養士と連携した食育を充実させ、健康な心身を培っていくとする意識を高める。 	4		4		<ul style="list-style-type: none"> ◎人との関わりを通して学ぶことについては、教員が100%、保護者が91%だった。ゲストティーチャーを招いている学習などを今年度は徐々に進めているが、その成果がまだ十分に伝っていない。 ◎児童へは、悩みの相談を周りの大人やスクールカウンセラーにしているかを問う質問だった。89%で、一番低かったが、スクールカウンセラーと接点のない児童もいるため、低い数字になったと考えられる。 ◎保護者が96%、児童が99%と、肯定的評価が一番高かった。 ◎教員アンケートでは、児童の行事への意欲が非常に高いことや、個性を發揮して運動会の表現に取り組んだ姿などが見られたとあった。高学年児童は、委員会や係などで役割を引き受けて活躍できたことが自信につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き人権教育を授業や生活指導で行い、多様性を認め合い、偏見や差別意識のない学校環境を目指す。 ◎自己の特性や学びと将来とのつながりを実感できる取組を行う。 ◎地域人材や小ホールボランティアの活用を増やし、児童が「自分は多くの方に大切にされている」という思いや「もっと多くの人と関わってきたい」という願いをもてるようにする。 ◎地域で働く人や様々な生き方の学ぶ機会を作り、児童の自己理解や憧れの念を抱きかきかけを作る。
家庭・地域とともにある学校	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域に学校運営について分かりやすく情報を発信する。 ◎教育活動の充実・改善のために、内部評価・外部評価を生かす。 ◎保護者や地域の願いを共有し、「開かれた学校づくり」に取り組む。 ◎家庭・地域と連携して教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎児童の学校生活や取組の様子がよく分かるよう学校だよりや学校ブログを充実させる。 ◎学校協議会委員・保護者・教職員・児童を対象とした学校評価を実施し、PDSAサイクルによる改善を図る。 ◎保護者・地域と協働し、「チーム十小」として、教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ、学校ブログによる教育活動の様子や適宜発信等、情報を分かりやすく伝える。 ・学校運営協議会委員・保護者・教職員による学校公開や行事等の実施後アンケート結果を生かし、教育活動の改善・充実を図る。 	3		4		<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者アンケートでは、90%が肯定的評価だった。ブログの更新はしているが、まず、見てもらうために周知することや、内容を工夫するなど、課題がある。 ◎教員アンケートでは91%が肯定的評価だった。今まで続けてきたブログの他に、1学期後半からまなほポケットでのお便り配信も始めた。今後も幅広く情報を公開していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校ブログでの配信を今後も組織的に、教育活動の様子や児童の様子が具体的に、迅速に伝わるようにする。 ◎本校の教育活動に対する保護者の方や地域の方の関心が高いので、活用している情報発信ツールの活用を次年度に向けて検討していく。 ◎教職員が発信者としての意識を高め、日々の努力や子供たちの姿の喜びを「伝えたい」という思いを大切にできるようにする。
			<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、児童が安心して通学できるよう日常の連絡などを丁寧に行い、保護者とともに児童の成長を支える。 ・保護者や地域人材が積極的に教育活動に参画できるように「学習ボランティア」「特別校内委員会」などのシステムを確立させる。 	4		4		<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者アンケートでは91%だった。学校ボランティアに参加する保護者も多数いるが、まだ家庭によって温度差があることも事実である。また、地域との連携を今後、どうやって図っていくかも課題である。 ◎教員アンケートでは、農園ボランティアや保護者ボランティアと連携する授業を行い、成果が上がっているという記述がみられる。今後も地域と連携した授業を開発し、国分寺学につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎今後も、「社会に開かれた教育課程」の実現のために、より多くの方に教育活動に携わっていただけるような体制を整える。 ◎教職員は、児童や保護者の不安や悩み、願いに寄り添い、安心して学校に通えるよう丁寧な指導や温かい対応を行う。 ◎「十小ボランティア」など保護者や地域の方の教育活動への参画を促す。また、教職員も地域の行事や活動に協力することで、協働して地域での子供たちの成長を見守っていく。